

日常はコロナの蔓延で一変。急ぎ足でやってきた少し先の未来を、欲望・行動・価値観の観点から女性の視点で解説。本音を探るアンケートから、新たな気づきを発見するコーナーです。

**コロナで欲望はどう変化したか。**

街ゆく人々の顔からはマスクが外れ、コロナはもはや過去の話のようです。「コロナ禍前の生活に戻りましたか」の問いに「ほぼ戻った」と答えた女性たちは7割以上でした。さまざまな制限が解けた今、真っ先に外食や旅へと動き出した女性たち(40〜70代)から、コロナ禍に、水面下でどんな欲望を抱いていたのか、価値観はどう変化したのかなど、あれこれ聞いてみまし



た。コロナ禍前よりも増えた欲望ベスト3は、「健康でいたい」が最も高く72・8%、次に「住まいを快適にした」(69・3%)、そして「旅へ行きたい」(65・8%)でした。公私ともに在宅時間が多かったことから、住まいに求めるものが変わり、「断捨離」をしたり「地球に優しい暮らし」を心がけたりと、随分意識が変化しようです。自由に出かけられなかったことから、「動けるうちに色々経験したい」と旅欲が増大したのも頷けます。

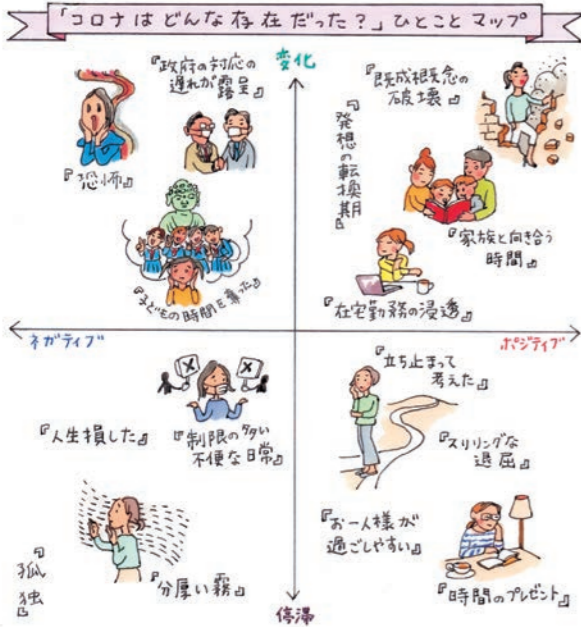
自由回答では、「人はあつけなく最期を迎えろとつくづく感じたので、自分に正直に生きたい」「時間を無駄にたくない。今やりたいことはできるだけやりたい」といった欲望が目立ちました。コロナで見えない明日を経験したことからの、欲望を先送りにはしないという傾向には納得です。「人生は有限だ」という意識が強まる中、「社会貢献や地球環境に良い行動をするエシカルな意識(欲)が増えた」「真実を知りたい。真剣に世の中を良くしたい」と自分欲より社会に対する意識の高まりも見られました。「人と過ごしたい」「大切な人々との繋がりを深めたい」という気持ちが増える一方、「少人数の仲間が美味しいものを食べたい」「行動の制限で無駄な付き合いがなくなった」など人間関係の断捨離をした人も多かったようです。家族といつもいたことから解放されたことで、「1人でのんびりしたい」「自宅での1人時間が欲しい」などひとり

生活の制限があったコロナ禍ですが、そんな中でも楽しみを見出したりコロナ明けを目標にしたりと、個々さまざまな行動をしていました。ダイエットと運動不足解消でジムに通い始めた人、心を強くしたいとボクシングを始めた人、マスクをしている間にシミ取りやプチ整形をした人、保護猫や犬を飼い始めた人、密にならないからと登山グ



**コロナ禍で新しく始めたこと、真っ先にやりたいこと。**

生活の制限があったコロナ禍ですが、そんな中でも楽しみを見出したりコロナ明けを目標にしたりと、個々さまざまな行動をしていました。ダイエットと運動不足解消でジムに通い始めた人、心を強くしたいとボクシングを始めた人、マスクをしている間にシミ取りやプチ整形をした人、保護猫や犬を飼い始めた人、密にならないからと登山グ



「コロナ禍後の欲望の変化」アンケート  
 ・実施：2023年10月〜11月  
 ・調査法：オンラインアンケート  
 ・調査対象：女の欲望ラボ会員40代〜70代114人

「コロナは……」「家族と向き合う時間」「在宅勤務の浸透」「発想の転換期」「既成概念を破壊した」「立ち止まって考えさせてくれた」「スリリングな退屈」「時間のプレゼント」「お一人様が過ごしやすい」

ループに入会した人、オンライン句会に入った人、精神の安定を求め瞑想を始めた人、園芸にいそむ人、田舎暮らしで養蜂に挑戦した人、洋裁を始めた人、ヘブライ語を学び始めた人、コーチングの資格をとった人、ひとり旅を楽しんだ人、髪型を変えた人、ウクレレを始めた人、読書の時間が増えた人などなど止まっていた時の中で数々の新しい発見があったことがわかりました。「やってみたくているうちに終わってしまった」

**「シンプルに生きたい」**

「コロナを経て意識や価値観が変わったことあるか」の問いには、「自分の人生をもっと大切にしようと思う」と大切にして楽しもうと思っただけで済んだ。「欲望はチャレンジしたい」「欲望は大事だ」という声がありました。その中で、「所有欲がなくなった」「身の回りに不必要なものが多かったことに気づき、人間関係も含めシンプルな生き方がしたい」という価値観が変わった。「人からど

うみられるかより自分がどう快適かへと美意識が変わった」「つまらないこだわりをすぐに捨てられるようになった」「人それぞれコロナ感染や予防に対する意識が違うと知り、個々の意識を尊重しなければならぬことを知った」など、欲望が厳選されて自分と他人との距離感などにも変化があったようです。コロナは単なるパンデミックには終わらず、人々の意識や価値観をも変えたようでした。

とポジティブな意見もあれば、「恐怖」「子どもの時間を奪った」「政府の対応の遅れが露呈」「人生損した」「分厚い霧」「孤独」「制限の多い不便な日常」などネガティブな捉え方も見られました。出てきた言葉は多種多様で、いかに個人によって捉え方が違うかを垣間見ることができました。生き方について深く考える機会にもなったコロナという経験を、今後どう活かせるかです。人生は大きく変わりそうです。

**コロナはどんな存在だったか、一言で。**

生き方や価値観まで変えたコロナでしたが、一言で表すと一体どんな存在だったのでしょうか。縦軸は変化と停滞、横軸はポジティブとネガティブで、上がってきたワードをグラフで配置してみました。コロナは……「家族と向き合う時間」「在宅勤務の浸透」「発想の転換期」「既成概念を破壊した」「立ち止まって考えさせてくれた」「スリリングな退屈」「時間のプレゼント」「お一人様が過ごしやすい」

**亜女子ブラリ**

コロナは亜女子の生活も一変、明暗を分けました。中国・深圳のEC業界で働く魚さん(27歳)は、コロナで免疫力が落ちた経験から人混みではマスクをし、家に帰ると手洗いうがい、家庭服に着替えるなどまだまだ警戒しているそう。一方、成都で日本語教師をする花さんは、とてもアクティブ。仕事をオンラインに切り替えてから、SNSでも発信を続けフォロワーは40万人。これからちよくちよく日本に遊びに行きます。12月は有馬温泉と関西のタワマンも見に行きました。東京に拠点がいけれど高すぎます。お正月は家族と東京に行きますよ。今後は日本のこともたくさん発信していきたいと意欲的です。



**未来へ向けて**

コロナを経て生活者の価値観は大きく変わった。暮らしや人間関係の見直しが進み、新たなステージに向かう人たちが増加。ネガティブ面だけではなく、ポジティブにも作用したコロナによって、人生で優先すべきことが明確化されたのではないか。